

2022年・秋 竹久夢二美術館 企画展プレスリリース

夢二をとりまく人間関係

交流から
生まれた
美と言の葉

2022
10.1 SAT
12.25 SUN



① 竹久夢二・画 セノオ楽譜「蘭燈」 1921 年
【歌手・淡谷のり子が愛唱した曲】

歌手・淡谷のり子は、外遊する夢二の資金集めに協力し、コンサートで歌を披露

夢二さんとの出会いは、夢二さんが渡欧する直前の昭和六年に
一緒にお仕事をさせていただいた時がはじめてですが、
子供の頃から私はファンでした。

淡谷のり子「夢二さん—つかの間の想い出」1990 年

竹久夢二美術館

ごあいさつ

大正ロマンを象徴する画家・竹久夢二(1884-1934)の人間関係に眼を向けると、夢二と同時代に活躍した人々との交流が浮かび上がり、大正文化に彩りを添えました。

本展では夢二と関わった文学者、画家、音楽家、出版人及び恋人を紹介し、各人ゆかりの作品や資料展示を通じて、夢二の交流から生じた美と言葉をクローズアップします。

あわせてこれらの人々が知るエピソードから、夢二の素顔に迫ります。

竹久夢二 プロフィール

TAKEHISA YUMEJI

本名・茂次郎(もじろう)
1884-1934(明治17年-昭和9年)
岡山県生まれ 画家・詩人

センチメンタルな画風の〈夢二式美人画〉作品をはじめ、恋多く、旅も重ねて大正ロマンを象徴する存在として広く知られる。明治・大正期の雑誌に発表した数々のイラストレーションをはじめ、日本画・水彩画・油彩画・木版画、さらにデザイン分野の作品を手掛け、さらに詩、童謡の創作にも才能を発揮し、詩画を融合させた芸術を開花させた。



展覧会の見どころ

- ✓ 文学者、画家、音楽家、出版人、恋人など、夢二にゆかりが深い50人を紹介。夢二が送った手紙や、各人とコラボレーションした作品を展示します。
- ✓ ゆかりの人たちが残した文章から、夢二の思い出やエピソードなど、印象的な言葉を紹介し、夢二の素顔に迫ります。
- ✓ 「萩原朔太郎大全2022」に参加、特別コーナーを設けます。

出展作品(広報用画像)の紹介

恋人・笠井彦乃を

モデルにした美人画



② 竹久夢二・画「夏姿」1915年頃

【恋人・笠井彦乃モデル】

歌人で友人だった吉井勇の歌集を装幀



「祇園歌集」「東京紅燈集」「明眸行」など、装幀はすべて夢二君にしてもらったのであつた。言はば私の青春時代の最もよき伴奏者であつた。
吉井勇「哀しみの花束集」1934年

③ 吉井勇・著 竹久夢二・装幀「祇園歌集」1915年

歌人・与謝野晶子が少女雑誌に発表した自伝の挿絵を担当

才気のあつたロマンチストで、惜しいことに正格な絵を書かうとして悩まれた儘で没せられたやうに思ひます。

与謝野晶子
「哀しみの花束集」1934年



⑤ 与謝野晶子・文、竹久夢二・挿絵「私の生ひ立ち」1915年

中山晋平作曲の楽譜で

数多くの表紙絵を飾る



⑥ 中山晋平・作曲 竹久夢二・画
中山晋平作曲全集民謡曲「愛して頂戴」1930年

版画家・恩地孝四郎は

生涯を通じて夢二の良き理解者



⑦ 竹久夢二
恩地孝四郎宛葉書
1911年

✓ 出品点数 約 200 点

息子・不二彦の寝顔をスケッチ



世間の目がとらえるほど父を女遍歴の激しい浮気者、というふうには思いません。いつでも父は誠実で、一緒に生活する者に優しく正直に對していた。
竹久不二彦
「父の思い出 夢二と、私の「母たち」」1985年

④ 竹久夢二・画

「不二彦スケッチ」1917年
「次男・竹久不二彦モデル」

「のらくろ」の漫画家・田河水泡が旧蔵

夢二日本画「サーカス」



マヴオの仲間たちと小遣いかせぎに、夜店のようなことをした(中略)竹久夢二さんが通りかかって、それを買ってくれた。(中略)お礼の意味で夢二さんの家の前で「待てど暮らせど……」と「宵待草」の歌を大声で合唱した。
田河水泡「私の履歴書」1988年

⑧ 竹久夢二・画「サーカス」昭和初期(漫画家・田河水泡旧蔵)

紹介する
夢二ゆかりの
50人

秋田雨雀・有島生馬・有本芳水・淡谷のり子・岩田専太郎・巖谷小波・上田龍耳・岡田三郎助・翁久允・小野政方・恩地孝四郎・笠井彦乃・神近市子・河井醉茗・川端康成・岸他万喜・葛原しげる・久米正雄・河本亀之助・西條八十・佐々木カ子ヨ・サトウハチロー・島源四郎・島崎藤村・島村抱月・妹尾幸陽・田河水泡・竹久不二彦・田中恭吉・谷崎潤一郎・徳田秋聲・長田幹彦・中山晋平・野口雨情・野長瀬晩花・萩原朔太郎・藤島武二・藤村耕一・落谷虹児・細田源吉・正木不如丘・松井須磨子・三好米吉・望月百合子・柳原白蓮・山田耕筈・山田順子・与謝野晶子・吉井勇・吉屋信子(五十音順)

●文学者 ●画家 ●音楽家 ●出版人 ●恋人 ●その他

萩原朔太郎大全 2022 に 竹久夢二美術館も参加します！

詩人・萩原朔太郎の没後 80 年にあたる 2022 年、朔太郎を介した企画展「萩原朔太郎大全 2022」が全国 52 か所の文学館や美術館、大学等で開催されます。

- ★夢二と朔太郎の出会いを紹介、詩集『月に吠える』、詩を寄稿した雑誌『若草』を展示。
- ★楠本まき作品内の朔太郎の詩を引用したページの原稿「KISSxxxx」「赤白つるばみ・裏」を特別公開。(併設の弥生美術館では同時期に「線と言葉・楠本まきの仕事」展を開催します)

萩原朔太郎大全 2022 ホームページ <https://www.maebashibungakukan.jp/taizen>



展覧会概要

展覧会名称

夢二をとりまく人間関係
—交流から生まれた美と言の葉—

主催及び会場 竹久夢二美術館

住所 〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-2

TEL 03-5689-0462

会期 2022 年 10 月 1 日(土)～12 月 25 日(日)

休館日 月曜日

※ただし 10/10(月・祝)開館、翌 10/11(火)休館

※新型コロナウイルスの影響により、変更になる場合があります。

開館時間 午前 10 時～午後 5 時(入館は 4 時半まで)

交通 東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び
南北線〈東大前駅〉よりいずれも徒歩 7 分
JR 上野駅 公園口より徒歩 20 分

入館料 一般 1000 円
大・高生 900 円
中・小生 500 円
※弥生美術館と二館併せて
ご覧頂けます。

ギャラリートーク

10 月 15 日(土)、11 月 13 日(日)、
12 月 17 日(土)
いずれも午後 2 時より、
担当学芸員が展示解説を
行います。
(所要時間約 45 分)

ホームページ

<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>

⑨展覧会フライヤー

萩原朔太郎
大全 2022

期間限定メニュー

ホットシヨコラオレンジ

月に吠える

縦く繊細な感性の詩が
散りばめられた
萩原朔太郎の第一詩集
『月に吠える』に着想を基に
アレンジ風味の
ホットシヨコラ
ドラッグフルーツのオレンジを
三日間に先ずました。

ミルクの懐い香りと
チョコの甘に
ちよびオレンジの
ほろ苦さも味わえる一杯
お好みで温度(50 円)も
加えてお楽しみください。

650 円(税込)

●朔太郎の詩が入った特製しおり付● 詩は 8 編、
ランダムにて 1 枚プレゼント!

美術館併設の〈夢二カフェ港や〉で
ホットシヨコラドリンク「月に吠える」を
期間限定でご提供します!

夢二をとりまく人間関係

YUMEJI TAKEHISA

交流から
生まれた
美と言の葉

2022 10.1
12.25

竹久夢二美術館

<https://www.yayoi-yumeji-museum.jp>

竹久夢二美術館

1990 年 11 月 3 日開館 創設者・鹿野琢見(1919-2009)の夢二コレクションを公開しています。館が建つ東京・本郷は、夢二が滞在した「新富士ホテル」がかつてあり、最愛の女性・笠井彦乃と逢瀬を重ねた場所。今なお昔の風情を留めて静けさと木々の緑に包まれています。都内で夢二作品を鑑賞できる唯一の当館では、年 4 回 3 カ月ごとに企画展を行い、夢二の生涯や芸術より様々なテーマを採り上げ、常時約 200~250 点の夢二作品を展示しています。

かのたくみ

1919-2009

新富士ホテル



展覧会についてのお問い合わせは

竹久夢二美術館 学芸員 石川桂子 までお願いいたします。

Tel 03-5689-0462 Fax 03-3812-0699

FAX 03-3812-0699

竹久夢二美術館 石川 行

夢二をとりまく人間関係

—交流から生まれた美と言の葉—

画像使用申込書

画像送付日 月 日 必着

掲載紙（誌）／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所 〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に○をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）								
1	2	3	4	5	6	7	8	9

読者プレゼント招待券（5組10名）	希望する	希望しない
-------------------	------	-------

通信欄

画像データの提供について

同封のプレスリリースに掲載の図版について、メールで画像データをお送りいたします。
ご希望の場合は、この申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX 03-3812-0699 までお送りください。また美術館写真（外観／展示室）等を必要とされる場合はご一報ください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5組10名様分）をご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。 〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2 竹久夢二美術館 担当 石川宛